

豊庄だより



第 730 号 2022 年 10 月 31 日

今号は先週の合同朝の会(10月24日)で話したカラスウリとアケビのことを書きます。この日は朝から冷たい雨が降り、外での朝の会ができ

福岡市早良区南庄2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達



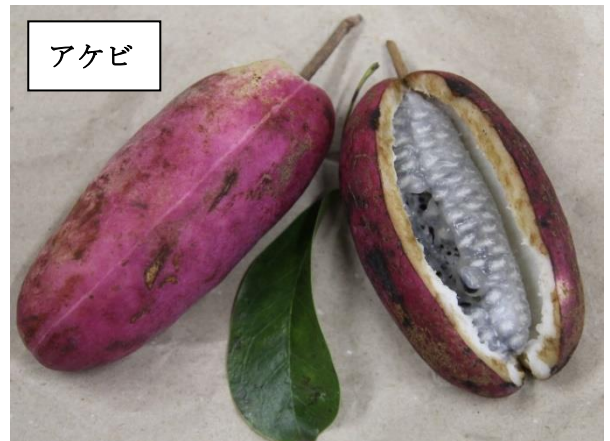
カラスウリ

ず、2階のゆり組の部屋で行いました(ばら、ゆり、ひまわり組が参加)。

カラスウリは、秋が深まってくると山野でよく目にする朱色の実です。食べることができるのかなど、調べてみました。苦くて食するには適さない実のようです。「この赤い実の名前は、カラスウリといいます」と子どもたちに話すと、歌声が聞こえてきました(岸本先生の歌でした)。「まっかな秋」です。朝の会の後、You tube で聞いてみました。つたの葉、紅葉の葉、夕日に照らされた君と僕の顔、秋は「赤」がいっぱいありますね。カラスウリは歌の2番に登場

します。みんなで歌えばよかったですね。

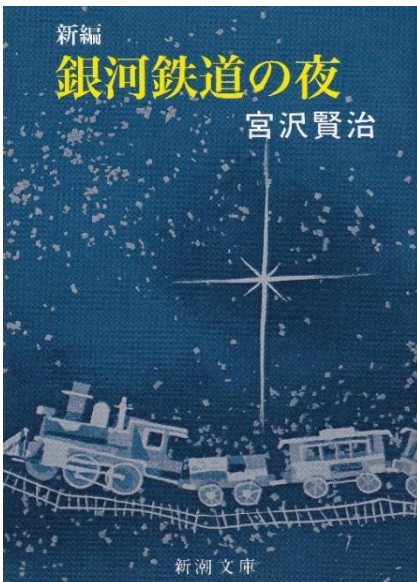
もう一つの秋の実、アケビは美味です。子どもたちに見せると、「イモだ！」と声をあげました。そういえばイモの形をしています。思ってもみない答えにちょっと驚きましたが、実を二つに割り、岸本先生に味わってもらいました。感想は、「とても甘かったです」でした。アケビは、つる性で他の植物に巻き付き、実をつけます。子どもの頃、山に入り、アケビを探し、食べた記憶があります。街中に住んでいると、なかなかお目にかかれないカラスウリとアケビですが、秋の風物の一つとして頭の隅にもおいていただければと思います。



アケビ

さて、ここからはカラスウリと宮沢賢治について。今回、カラスウリについて調べていた時、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』にカラスウリがとても重要な植物として扱われていることを知りました(『銀河鉄道の夜』を読んだのは、ずいぶん前のことでしたが、カラスウリが出てくるのは何となく記憶にありました)。『銀河鉄道の夜』を読み返しました。

『銀河鉄道の夜』は、夢の中で本当の幸いを求めて銀河宇宙を旅する話です。カラスウリは、「烏瓜のあかり」という名前で登場します。「烏瓜のあかり」とは、カラスウリの実をくりぬいて灯籠にしたものです。主人公ジョバンニは、親友カムパネルラと「みんなのほんとうのさいわい」を求めて、銀河鉄道に乗って美しく悲しい夜空の旅をします。カムパネルラが、ケンタウル祭りという星まつりで「烏瓜のあかり」を川に流そうとして、亡くなってしまいます。「さいわい」を求めているのに、親友は死んでしまうのです。



中学1年の国語の授業で、この『銀河鉄道の夜』のことを話したことがあります。そのことを参考にしたかどうかはわかりませんが、夏休みの宿題で出した読書感想文に、「なぜ幸福を求めているのに死んでしまうのか？幸福の先には死があるのか？」と書いてきた生徒がいました。いまでもこの問いへの答えが出ません。※この鋭い感性を持った卒業生は福岡市内で保育士をしています。どんな保育をしているのか、見学したいと思っています。